

IGCS



INTERNATIONAL
GYNECOLOGIC
CANCER SOCIETY

ロベルトから皆さんへのメッセージ

メンバーの方々、友達、同志の皆さま：

INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (国際婦人科腫瘍学会) 会長の DR ROBERTO ANGIOLI です。

現在、ローマの事務室から COVID-19 が過去数週間にわたってイタリアにもたらした甚大な打撃について考え巡らしているところです。COVID-19 パンデミックは私達が知る限り前例のない苦境を強いています。このパンデミックは私達の暮らし、医療、経済など広範にわたって古今未曾有の災害をもたらしています。親戚、友達、患者さんと通常どおり会話をし、診療所で患者さんの治療や執刀を行っていたのはほんの4週間ほど前のことであったとは、到底信じる事ができません。患者さんが受けるに値する優れた医療サービスを提供していく上で、当分の間、この新しい現実とどのように向き合うか、全世界の人たちがそれぞれ模索しています。

COVID-19 は国境や社会的な境界を知りません。あらゆる国が政治、経済、社会、宗教、文化の違いを超

え、一丸となって共通の課題を克服するために取り組むのは歴史上、これが初めてのことです。

私達が住むローマでは、人類を守るために個人の自由をささやかながらも犠牲にしています。こうした犠牲から責任感が生まれ、生きるということのありがたさを感じるのではないのでしょうか。そして意気投合し、お互いに寄り添いあっていく世界が生まれます。

マスクの輸送に加え、イタリア市民のために命の危険をかえりみない専門医師団を送り込んでくださった中国の皆さんと政府に深謝いたします。

こうした苦難が続く中、私達同様、皆さんの多くは最前線で患者さんおよび同志の臨床医の方々の支援に現在あたっているか、もしくはこれからあたることになると思います。医師として、そして人間として、我々婦人科腫瘍専門医は支援の手を差し伸べる用意が整っています。

イタリアは依然として厳しい現況にあります。ウイルスが猛威を振るった最初の地域であり、依然として死亡率が最も高いイタリア北部で頑張っている私達の友人と同僚を続けて支援していく所存です。

ローマでは改善の兆しがほのかに見え始めており、一同喜んでいきます。

もちろん、9月にローマで予定しているIGCS会議については、特に医療関係者などの渡航事情も含め、状況を注視し続けていきます。COVID 19により、渡航できない同志の方々については特別の手配をいたします。

状況は向こう数週間から数か月にわたって改善されると見ており、大規模な科学学会を予定通り開催し、COVID-19による混乱以来初めて皆さんと一同に会する日を待ち望んでいます。

これまで数週間にわたってたくさんのメンバーの方々から、私と家族、ローマそしてイタリア全域の同僚に向けたお気遣いの言葉をいただき、感極まるものがあります。皆さんの温かい寄り添いの言葉がこの苦しい時期に光明を差してくれています。

苦難を強いられている今日、確固とした指揮を取っているIGCSの経営陣や同僚の皆さん、CAMPUS BIOMEDICO 大学病院の運営者の方々に感謝の意を申し上げます。

公衆衛生規制により、社会的距離が余儀なくされている中、お互いに心の絆をこれまで以上に深めていきましょう。皆さん、くれぐれも体をお大事に、そして安全でいてください。